

令和7年度（4月版）

揖斐農林事務所の概要

～農業農村整備事業～



ため池の耐震・豪雨対策



農村振興 農業集落道



農村振興 用水路



経営体 揚水機場

～農業振興・普及事業～



鳥獣害対策支援



果実共同選果場（柿）



就農支援協議会



生育調査（麦）

～治山・林道事業～



治山事業PR（谷汲小学校）



治山事業 谷止工（南谷）



治山事業 山腹工（山平）



林道 池田～明神線

～林業振興・山村地域振興～



森林整備事業（木材生産）



森林整備事業（植栽）



企業の森づくり活動（大垣共立銀行）



緑と水の子ども会議（谷汲小）

コロナ
感染防止！！



清流の国ぎふ憲章

～豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国～

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知 清流がもたらした自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創 ふるさとの宝ものを磨き活かし、新たな創造と発信に努めます

伝 清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

そして、

共 ふるさとへの愛着と誇りを胸に、

一人ひとりが輝く未来を共に築きます

〒 501-0603 岐阜県揖斐郡揖斐川町上南方1番地の1 揖斐総合庁舎 3階

TEL (0585) 23-1111

FAX (0585) 22-6725

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/ken-gaiyo/soshiki-annai/nosei/norin-jimusho/ibi/>

1 管内の概要

(1) 自然と地理

揖斐農林事務所管内は、県の最西部に位置し、揖斐川町（平成17年1月、1町5村が合併）・大野町・池田町の揖斐郡3町により構成されています。

北は福井県、西は滋賀県と接しており、県境には最高峰の能郷白山(1,617m)を筆頭に標高1,200m級の山々がそびえています。また、濃尾平野の北西端にあたる管内南東部は、揖斐川や支流の粕川、根尾川等により形成された扇状地に耕地や市街地が広がっています。

気象は、日平均気温16.2℃、年間降水量2,686mmで、日本一の総貯水容量6億6千万m³を誇る徳山ダムが建設されるなど、重要な水源地域となっています。

（気象庁データ〔揖斐川〕2015年～2024年の平年値）

土地は、東西約35km、南北約45km、総面積は87,644haで、県土面積の8.3%を占めています。

管内の耕地面積は3,817haで総面積の4.4%を占め、うち水田は3,008ha(78.8%)、畑は800ha(21%)となっています。

（農林水産統計 R5耕地面積調査）

管内の森林面積は75,550haで総面積の86.2%を占め、うち民有林は69,984haで森林面積の92.6%を占めています。

（令和4年度 岐阜県森林・林業統計書〔R6.3発刊〕）



(2) 社会情勢、農林業の概況

管内の人口は、60,674人（県人口動態統計調査〔R6.12.1現在〕、前年比2.2%減）で、県内人口の3.2%を占めています。

管内の基幹道路としては、国道303号が、大野町から旧揖斐川町を経て旧坂内村から滋賀県長浜市に、国道417号が、池田町から旧揖斐川町に入り、旧藤橋村から福井県今立郡池田町へと通じています。福井県境の難所を解消するため、冠山峠道路が完成し、令和5年11月19日に開通式が執り行われ供用開始されました。さらに、東海環状自動車道の整備も進んでおり、山県IC～本巣ICが本年4月6日に、本巣IC～大野神戸IC間が本年度中に開通する予定です。一方、「いび薬草の里づくりプロジェクト推進協議会」が昨年5月1日に設立され「いび薬草の里づくりプロジェクト」に着手しています。

①管内農業の概況

管内の農家戸数は、2,405戸で総世帯数の11%を占め、うち販売農家は1,194戸(50%)となっています。（2020年農林水産センサス）。認定農業者は148(計画数)、認定就農者は15、農業生産集団・農業法人等は80組織あり、熱心に営農活動を行っています(R7年3月現在) 特に、平坦地域における農業は、水稻と麦・大豆等の転作作物を組み合わせた水田フル活用の推進に加え、「美濃いび茶」、「柿」、「バラ苗」産地等のブランド化や、農業経営の改善を図るための生産振興や生産技術の向上等が進められています。

一方、中山間地域では、その特性を生かした「沢あざみ」等の特産野菜・「小菊」等の花き生産が行われています。近年では、「とうがらし(徳山なんば)」や「金ごま」等の新たな特産品づくり、ジビエ加工などの取り組みが進められています。また、畜産は、酪農・肉用牛・養豚・養鶏等の専門的経営が営まれています。

さらに、伊吹山麓には古くから薬草が自生しており、薬草料理等の文化が今も継承されています。

②管内林業の概況

管内の森林面積に占める民有林の割合は、92.6%(69,984ha)で、県平均の79.4%(684,835ha)に比べて、13ポイント高く、一方、民有林人工林は21,449ha、人工林率30.6%で、県平均の45.2%に比べて14ポイント低いのが特徴です。人工林は、森林公社等の機関造林によるものが半数を占めており、昭和30年代～50年代の組織的な拡大造林により、スギ・ヒノキの植林が進み、林齢31～60年の林が、人工林の67.4%を占めています。

（令和5年度 岐阜県森林・林業統計書〔R6.3発刊〕）

このような中で、森林資源の成熟に伴う利用間伐の推進や、主伐・再造林による木材利用の推進と林齢の平準化、花粉症対策でのスギ人工林の伐採が喫緊の課題となっています。このため、森林経営計画の作成など、長期的な視点で指導できる人材や、木材生産技術者の育成が進められています。

また、県産材の需要拡大を図るため、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」が令和5年4月1日に施行され、建築物だけでなく、家具や木質バイオマス、公共工事での間伐材の使用に努めています。

さらに、管内森林面積の大部分を占める揖斐川町では「バイオマスタウン構想」を策定し、地産地消型の木質バイオマスエネルギーの活用に取り組んでいます。平成27年10月11日には、揖斐川町谷汲において全国で初めて皇室自らが「間伐」を行った「第39回全国育樹祭」が開催され、「世代をつないだ森林づくり」への取り組みが全国へ発信されました。森林空間を活用し「健康」「教育」「観光」等多様な分野で展開する事業である「森林サービス産業」の取り組みを昨年度から着手している「いび薬草の里づくりプロジェクト」に合わせ春日笹又地域においても展開しています。

組織・事務分掌

